

ロータリー・ク

ラブから見舞品

水俣に発生して密病はいま全国の耳目を集めているが、熊本ロータリー・クラブではいまだ原因も判らないまま苦しんでいる人々を少しでも救めようと二十四日午後二時半から熊大医学部付属病院聴台分院を訪れ入院患者を見舞った。



この日訪ねたのは同クラブ社会福祉委員の委員長阿部次郎氏ほか熊本大学長、福田虎雄氏、木下高氏、日吉西部方入熊本支店長ら委員五氏。同分院隔離病室に入院しているのは水俣市月浦部落の大入、子供合せて十二人だが、昨年九月末から治療をつけているもののほとんどが手足や目耳に障害をうけており、話すことも判らない

ようなひとはいばかり。見舞つた五氏もいまだこのように苦しんでいるが主治医の説明をききながら一人、一人くわしく症状をきいて、早くよくなつて下さい、とほじました。外部からは初めての見舞だけには涙を流して慰める人もありそれぞれ見舞品を贈つてなぐさめた。一尋視は患者を見舞うクラブ員